

平成27年度  
事業計画

### 社会福祉法人ふらっと 基本理念

1. 私たちはノーマライゼーションの理念や、ユニバーサルデザインの考え方を大切にし、全ての市民が住みやすい福祉社会の実現に向かって努力します。
2. 私たちは松江市内に限らず、広域行政を意識しながらIT関連メディアを活用し在宅支援のネットワーク化を図ります。
3. 障害当事者が当事者をサポートするイメージを大切にし、運営する施設の職員や相談員、介護スタッフも障害者でできる可能性を最大限追及し「ピアサポート」を前面に押し出しながら雇用の場も創出します。
4. 私たちは分譲やサテライト方式を大いに導入し、営業拠点を松江市内外に点在させ「利用者」や「顧客」が真に利用し易い状況をつくりだします。
5. 私たちはあらゆる障害をもつ人々の「自立」や「就労生活支援」を視野にいれながら事業を展開します。

# はじめに

平成 27 年度は厳しい予算編成の中でも、法人組織の成長、障がい者当事者の成長、従業員の成長、各事業の成長、地域の成長等様々な成長を意識しながら、将来を見据え安定した組織運営体制を構築する一年とします。

ふらっとは、設立から多くの協力を得ながら、障がい者の「働く場」を当事者が主体的に行動し築き上げ、大きな役割を果たしてきました。それは全国的にも数少ない事例の一つと言えます。今後も、更に障がい者の「働く場」を拡げ、次世代に事業を継承していくためには、今ここで安定した組織運営体制を構築し成長していける体制づくりが必要となります。

## <法人組織について>

昨年の労働基準監督署立ち入り調査は、法人にとって大きな出来事でした。2年分（1200万円）の時間外手当支払いは、資金的に非常に厳しいものとなっています。

しかしながら、これを期に規程の整備や運営体制の見直し等が取り組まれています。法人役員の経営管理責任は、今後さらに大きなものとなります。より先進的な取り組みを積極的に進めていけるよう、経営視点からも継続可能な運営体制が必要となります。役員に情報提供を行いながら、共通認識を持ちながら公益性の高い、ニーズに沿った事業を計画していきます。

## <障がい者当事者の主体的活動について>

ふらっとの特徴の一つとして、障がい者当事者の経営参加や事業参加があげられます。障がい者当事者が主体的に行動していける力を持つことは、自立した地域生活をおくるためだけでなく、地域社会の活性化にも不可欠なものだと考えます。

今後も、法人経営、事業運営において障がい者当事者が主体的に行動できるように、様々な機会を通じ促していきます。

## <事業運営について>

ふらっとは、事業運営全般を利用者も含め従業員全体で役割分担し、行ってきました。

このことは、将来の福祉事業のあり方にも関わる取り組みであると考えています。法人業務、支援業務、各事業における業務を適材適所で高い専門性と経験、技術を持って遂行していける体制づくりをさらに力強く進めていきます。そのために、人材育成については、計画的にプログラムを作り取り組んでいく必要があります。新人教育も含め新たな部門として確立させていきます。

## < A型事業の取り組みについて>

A型事業所における事業展開は、従業員の増加、成長とともに高い品質のサービスを提供できる体制が整いつつあります。今後さらに営業力、生産力、サービス力を高めつつ、事業を安定的に成長させていけるよう努力していきます。また、地域資源を活用した取り組みを取り入れながら、新たな事業に向けた計画を立てていきます。

## <地域社会の活性化について>

ふらっとの事業活動は、地域社会の活性化に向けても必要なことと考えます。今後も地域に役立つ事業、障がい者理解を促す取り組みを当事者が主体的に行いながら、成熟した地域づくりに寄与していきたいと思えます。

経営状況は非常に厳しい状況ですが、将来の可能性を信じ、各事業の安定した発展に向けて、法人として体制強化するとともに、誇りを持って働いていける環境づくりを進めて参ります。福祉分野においても、地域振興分野においても、当事者視点を大切にしながら、全国に誇れる事業を展開していきましょう。

# 法人本部

## 1. 重点目標

- ① 法人役員が経営主体者として役割を果たせるように各事業所の状況、研修等の情報提供を行う。各事業所の長期・中期の事業計画を、法人役員にもう一度周知できるようにする。
- ② 従業員（職員、利用者）が、やりがいのある職場と感じ、事業を担う一員である自覚と目標が持てるように専門家に依頼する事、研修を受ける事等の環境づくりをする。

## 2. 具体的取組

### （1）従業員

- ① 利用者の相談、苦情対応の第三者委員をもう1名決める。
- ② 採用計画、募集、採用決定、人材育成、研修等を一連のものとして組織的に取り組み、採用後（パート含む）には法人の理念、規程等をきちんと伝える時間を設ける。
- ③ 従業員の役割分担を明確化し、遂行出来るように協力する。
- ④ 従業員のファイルの整理をする。
- ⑤ 労働者代表との協議……労使協定、互助会総会及び行事支援。
- ⑥ 健康診断、嘱託医による健康相談、インフルエンザ予防接種（希望者）を行う。

### （2）情報伝達

- ① メールと共に法人ホームページをより活用するため、ホームページ内に、情報共有等を目的とした従業員専用ページを設け、回覧板システム等へのリンクを貼るなど、項目を充実させる。
- ② 年度内に可能であれば、各事業所にタブレット端末を設置し、紙媒体の回覧版または稟議書の代替ツールとして利用する。

### （3）規定

規定の文言の整理、車両管理規定、危機管理規定、各種マニュアル等を施行できるようにする。

### （4）理事・評議員会および監事監査

理事会（年4回）      評議員（年数回）      法人監事監査（5月）

## (5) 会議

統括会議……理事会に次ぐ意思決定基幹会議と位置づけ、各事業所の状況報告等により考え、知恵等を忌憚なく話しあえる会議にする。

## (6) その他

- ・ 内部経理監査を行う。
- ・ 役員、従業員へニュースレターを発行し、事業の現況を周知する。
- ・ 住所録の整理、管理をする。

# 応援スタジオ ジョイ (地域活動支援センタージョイ, 相談支援事業所ジョイ)

応援スタジオ「ジョイ」は、障がい者(市民)が暮らしやすく、住みよい街づくりの活動、運動を進める拠点をめざしています。主に二つの事業を一体的にすすめます。

- ① 障がい者(市民)の地域活動支援センターⅢ型事業
- ② 障がい者相談支援事業 (ソーシャルワーク事業)

## 地域活動支援センターⅢ型 ジョイ

### 1. 事業予算額

550 万円 (平成 26 年度の補助実績額)

### 2. 活動内容

#### (1) 重点目標

障がい者(市民)、当事者が集い、自らの暮らしの充実、暮らしやすい地域を目指した活動に取り組みます。また、互いに共同し健康維持、文化活動、共同活動を事業として推進し、共同した活動の発信拠点をめざします。

#### (2) 具体的取組

##### ① IT の有効活用

移動の制約や発語の困難、引っ込み思案、差別、偏見など社会的な制約から、他者との交流の場を持ちにくい人々は少なくありません。社会生活、交流を広げるためにも、IT の有効活用をすすめます。

##### ② 健康維持活動

二次障害の予防のための健康体操(日頃は使うことが少ない関節、筋肉を適切に使う体操)を専門家講師の協力を得て、毎週 1 回行います。引っ込み思案や社会的障壁には、当事者エンパワーメントを高めるよう、心に対する支援や支持をします。

##### ③ グループワーク

参加者で情報交換を含めたグループワーク(茶話会、文化的活動、企画等)を行います。

##### ④ 障がい当事者によるサービス受給実態と情報収集と発信する活動

##### ⑤ 障がい者団体諸活動の拠点提供と支援

障がい者運動の発展について支援を行います。

## 相談支援事業所ジョイ

### 1. 事業の目的、目標

#### (1) 事業の名称

相談支援事業所ジョイ

#### (2) 事業の予算

松江市委託事業委託金額年額 485 万円、計画相談サービス給付 500 万円(総額 985 万円)

#### (3) 事業の目的

ジョイ運営規定第 2 条に基づき、対象者がその有する能力及び適正に応じ、社会生活者として主体形成できるよう支援を行う。また、自立した日常生活又は社会生活の実現をめざし、当事者と協働した支援を行う。対象者の心身状況、置かれる社会状況(保健、医療、福祉、労働、教育、住居などの社会環境等)から、対象者が多様なサービスが自律的に選択でき、以て総合的、効果的に生活に資することができるよう配慮する。

#### (4) 事業の種類

一般相談支援、一般特定相談支援、障がい児相談支援、地域移行相談支援、地域定着相談支援(依拠法令「障がい者総合支援法」)

### 2. 利用者(支援対象者)の目標及び数値

一般相談支援 100 名(計画相談を含む登録対象者総数 280 名)

計画相談支援 130 名(新規 30 名、継続 100 名)

地域移行支援 未定

地域定着支援 未定

障がい児相談支援 未定

介護保険 2 号被保険者 未定

### 3. 新規または重点課題

#### (1) 相談支援専門員の配置と技能向上、研修

① 相談員 1 名の増員を予定し、担当可能なケース数を拡大します。

② ソーシャルワーク技能向上のための研修を行います。

相談支援専門員認定(法定)研修は以下の 2 種類です。

- 相談支援従事者初任者研修。7 月、8 月の 5 日間(開催日時、場所未定)
- 相談支援従事者現任研修。次年度 1 月の 3 日間(開催日時、場所未定)

日常的には、2 週に 1 回事例検討会、アセスメント手法、介入手法、社会資源学習会を開催します。

- ③ 機能障がい別、課題、介入手法別のソーシャルワーク研修会の受講と主体的開催をすすめます。

入所利用系、通所生活維持系の事業施設を運営していない法人として、相談支援の窓口開発を進めます。

同時に、医療機関の福祉部門、リハビリテーションセラピストなど多様な専門職と共同できる相談員をめざします。（介護保険事業所の介護支援専門員、訪問看護ステーションの看護師と訪問リハビリテーションセラピスト、また、日常生活用具や補装具製作者、建築士など）幅広い命と暮らしに関わる支援を目的とした専門家集団の形成をすすめます。

- ④ 相談支援専門員後継者育成

今後、相談支援の仕事を担当する後継者養成では、実際に相談業務に従事する中で、障がい当事者から学ぶ姿勢を明確に位置づけます。より専門的な技能の習得ができるよう取り組みます。

## （２） 松江市障がい者福祉事業への関与

松江市の相談支援事業の委託（機能強化事業所）を受諾します。

- ・ 松江市社会福祉協議会の松江障がい者サポートステーション絆への相談員（機能強化事業所相談員）派遣を受託します。

## （３） 計画相談の有効で合理的な運用をすすめます。

平成 26 年度の導入した相談支援業務の総合管理ソフト「見聞録」（株式会社東経システム）を有効な活用をすすめます。

## （４） ピアサポーターの育成

障がい当事者性を発揮した援助者となる人材の育成をすすめます。

# 就労継続支援 A 型事業所 ピー・ター・パン

## 1. 目的

「どんなに障がいがあろうと働く喜びを感じ、人との関わりの中で成長していける場であること」を大切に、一人一人が、社会の一員であることを実感出来ることを目指す。

柔軟な仕事作り、個別支援の充実を図っていく。また従業員の人材育成に力を入れ、その体制を作っていく。

## 2. 障がい者支援

障がい者従業員の増員を図り、安定継続して事業展開出来る体制づくりを進めていく。

A型事業所として、内部ルールや、評価基準、支援目標の具体化等、共通ツールの導入を図っていく。

また、地域に役立つことを積極的に考え、実践することで事業所の認知度を高めると共に、従業員の自信や誇りに繋げていく。

### (1) 増員目標・・・5名

### (2) 増員の取り組み

#### ① 人材育成の確立

技術習得研修や自己理解、自己実現に向けた研修機会を整備していく。

#### ② 仕事内容の充実

シルク印刷機導入、ホームページ制作等、従来事業の拡充の他、地域に出向いて行う講演活動、そば打ちキャラバン等を行いながら、地域ニーズに合わせ、新たな事業や、仕事づくりを進めていく。

また、近い将来、新規事業として取り組む可能性のあるものの調査・企画をはじめていく。

#### ③ 関係機関への周知

関係機関への訪問を積極的に行い、連携した取り組みを行いながら、関係性強化に繋げていく。

### (3) 支援の取り組み

#### ① 研修機会の充実

福祉、支援に関する研修を必須項目に、障害理解やコミュニケーション、虐待防止、権利擁護、事例検討等、個別支援に関する研修に各自年に1回以上の参加。

外部講師を招いての内部研修、事例検討会開催

#### ② 評価の数値化、可視化

利用者のスキル、職員自身の支援スキルに関するもの（自己チェック等）

#### ③ 支援計画の具体化、実行 担当職員の明確化

④ 外部機関との連携強化

相談機関、ハローワーク、医療機関、教育機関等との連携強化を図っていく。

⑤ 施設外支援・施設外就労の充実

現在行っているものを検証、整理しながら、より有効な取り組みとしていく。

### 3. 生産事業

#### H27年度ピー・ター・パン売上計画

(1) 売上目標・・・6,000万円

(売上目標内訳)

① 印刷・・・4,000万円

- しまね故郷名刺 250万円
- 一般名刺 200万円
- チラシ・ポスター・会報・冊子 2,150万円
- 封筒・ハガキ・伝票・など 500万円
- その他（軽作業含む） 900万円

② ウエアプリント\*UVプリント・・・2,000万円

③ その他新規事業

#### 売上向上戦略

(1) ターゲット

行政、一般（個人・企業）

(2) 取扱商品

デザイン、名刺・チラシ・パンフ・ハガキ・冊子・会報・ポスター・封筒・伝票・年賀状  
Tシャツ・ブルゾン・バッグ・タオル・スマホケース・ボールペン・Q U Oカードなど

(3) 市場性

- ① 印刷物市場規模に変化なし
- ② オリジナルプリントに関しては市場拡大を大いに狙える

(4) サービスの優位性

- ① 小ロット・多品種に対応
- ② 短納期への対応
- ③ Tシャツ・バッグプリント機器の設備整備でお客様への多種多様な提案

- H27年3月より『新・しまね故郷名刺』発売。県や市の観光課からの提案でしまねっこ、縁結びロゴや古事記ロゴの使用、また当事業所のスタッフが撮影した松江市の名所の写真やスタッフが考えたコピーなどを使用することで郷土色のあるデザインと価格で他社との差別化を図っている。H23年からの企画で行政職員に定着している
- 製本機の導入で今まで外注に出していたものを内製化することにより冊子などの短納期を実現
- ウェア用インクジェットプリンターで、今までの転写での製品より販売価格を下げる事ができ、短納期、デザイン性向上を図る
- シルクプリント機器導入で、数量の多い案件に対応可能
- UVプリンターで、スマホケースやボールペン、Q U Oカードなどにオリジナル印刷できる。小ロットに対応

#### (5) 収益確保の取り組み

一般企業からの発注が増加しており、スサノオマジック関係の繋がり効果は大きい。今後も継続して取り組む。

一方で官公需に関しては、優先調達法の効果で見積り案件は増加傾向にあるが、他のB型事業所との価格差が著しく必ずしも成果に繋がっていない。今後全国的な課題となる可能性もあり、動向を見ながら対応していく。

営業力強化を図っていくため、従業員の営業視点の研修機会を設けながら、顧客サービスの充実を図っていく。

新規事業への展開も地域に必要とされるサービスを準備を進めていく。

##### ① 製作時のロス徹底的に削減

印刷に関しては、指示書確認不足による印刷枚数の間違い、内校ミスでの誤刷など。ウェアプリントでは、シルクプリント時に素材別でロスが多い。これについては慣れで解消予定。製作時のミスに関しては、各部所に責任者を配置するなどして工程チェックの徹底

##### ② 外注費削減

印刷会社の協力を得て、外注費を落としている。マテリアル製品については、設備整備が整い、特殊素材へのプリント以外は内製可能になっている

##### ③ 営業範囲拡大で売上増

- 既納客維持＋新規顧客開拓
- デザインのできる職員が増え案件の取り幅拡大

#### (6) 課題

- ① 営業人員と案件数のバランス調整（効率よく大きい金額をこなす）
- ② マテリアル担当職員入れ替え後の教育体制
- ③ 品質管理体制（納品前チェック）
- ④ マテリアルのリピート率

## (7) 営業戦略

- ① スサノオ関連の案件を細かく利益確定させる。(現在はチームからの案件依頼が増)
- ② しまねのSUPER大使吉田くんとしまねの地酒コラボTの販売
- ③ 外注先の営業マンに当事業所の設備と製品をPRし、印刷やウェアプリントの注文増。営業人員不足を補うため今後も各方面と交流を持ち案件を取る
- ④ インクジェットプリンターやシルク機器導入でノベルティ用品にオリジナルプリントが可能になった。ギフト店やメーカーへの商品提案
- ⑤ ウェアプリントに特化することで、迅速なイメージ案提供やサンプル提出など、他社ができないことで差別化を図り受注を増やす。県央、県西部への営業活動
- ⑥ しまね故郷名刺を細かく各圏域用に計画する
- ⑦ 新規開拓と既存客のリピート率を上げるのにDMを活用
- ⑧ 養護学校、福祉事業所などへの積極的な商品提案
- ⑨ 優先調達推進法の徹底を関係機関へ図り、確実に売り上げにつなげる

## 4. 会議

- ① 現場職員会議…毎週1回(現場作業・利用者情報等、共有確認事項)
- ② 個別支援会議…毎月1回(個別支援の情報共有、支援計画の見直し)
- ③ 小グループでの定期ミーティング、課題解決等

## 5. 主な年間行事

- ① 健康診断(年1回)
- ② 防災訓練(年2回)
- ③ 社内レク

## 6. 入会団体

- スサノオマジック
- 障がい者就労事業振興協議会
- セルプ協議会
- きょうされん
- NPO法人だんだんね 等

# 就労継続支援 A 型事業所 ビストロ 庵 タンドール

## 1. 目的

美味しい料理と優しさあふれる接客と雰囲気、お客様とスタッフが優しい笑顔になれる場所を目指す。

松江市の玄関口、観光地で、地元的一般客、観光客、障がい者、大人、若者、子供、あらゆるお客様に接することで、社会の一員であることの実感を感じることが出来、働いている姿を目にしてもらうことにおいても障がいの有る、無しの壁を取り除くきっかけになるように意識しながら、壁を感じない地域社会を目指す。

## 2. 障がい者支援

障がい者従業員の増員を図り、事業運営面でも安定継続出来る体制づくりを進めていく。工夫して働ける職場の共通認識を持てるようにしていく。

(1) 増員目標・・・4名

(2) 増員、定着の取り組み

飲食店としての仕事の細分化、明確化により充実を図っていく。また、弁当事業の定着等、関係事業強化を進め、仕事づくりを進めていく。

- 実習の積極的受入

(3) 飲食店事業

年間売上目標：3800万円

- 畔庵360万円
- 庵タンドールランチ660万円
- ディナー2600万円
- 弁当180万円>

① イベント企画の充実

ホールの広さ、立地条件を活用し、音楽イベント、生産者紹介イベント、地元の食材を生かしたイベント、季節に合わせたイベント等を定期的に行い、集客力を高めていく。

② 弁当事業の充実

引き続き法人事業所の昼食提供を充実させていくと共に、市役所職員弁当や、各種行事弁当の受注等、庵タンドールのPRも兼ね、飲食店ならではのサービスを展開していく。

③ 塩見縄手「松江ごころ」における販売店「カフェ畔庵」の充実

観光客サービスの充実を図っていく。庵タンドールの仕込み作業等も役割とし、空き時間を有効に活用できるようにする。

④ しまね地酒マイスター検定の運営

### 3. 会 議

- ④ 個別支援会議…年 4 回（個別支援の情報共有、支援計画の見直し）
- ⑤ 現場ミーティング

### 4. 主な年間行事

- ④ 健康診断（年 1 回）
- ⑤ 防災訓練（年 1 回）